

## ダイコン、ハツカダイコン\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	春まき				—	—						
	モザイク病				—	—	—					
	苗立枯病		—	—	—							
	秋まき								—	—	—	—
虫害	アブラムシ類			—	—	—	—					
	キスジノミハムシ			—	—	—	—					
	コナガ			—	—	—	—					
	アオムシ (モンシロチョウ)			—	—	—	—					

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期  
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	・ 次の薬剤のいずれかを予防的に散布する。 サンボルドー(水) 300~600倍 Zボルドー(水)* 500倍	秋季及び春先の低温多湿時に多発しやすい。9月中~下旬どりでは根部に黒変(入れ墨症状)を生じることがある。 *野菜類での登録
	収穫後	・ 被害茎葉は圃場にすき込まない。	
白さび病 (ワッカ症)	播種前	・ 次の薬剤を処理する。 ユニフォーム粒剤△ 全面土壌混和 6~9kg/10a 作条土壌混和 6kg/10a	ワッカ症は根部に黒色・円形のしみを生じる症状で、本病菌の胞子が、葉から根部へ感染することにより発症する。 #ワッカ症のみの登録 △施設内で使用する と葉が黄化する薬害を生じるおそれがあるので注意する。
	生育期	・ 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 カスミンボルドー(水) # 1000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ランマンフロアブル☆ 2000倍	
亀裂 褐変症 (リゾクトニア菌)	播種前	1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を全面土壌混和する。 リゾレックス粉剤 # 20~40kg/10 a	本病はリゾクトニア菌による。亀裂褐変症にはアフアノミセス菌による類似症状がある。 #リゾクトニア菌にのみ有効
	生育期	・ 次の薬剤を散布する。 バンタック水和剤75 # 1000~1500倍	

\*1: ダイコン(根、及び茎葉 葉ダイコン、ダイコン菜を含む)と、ハツカダイコン(ラディッシュを含む)は、使用できる農薬が異なる ☆が付いている農薬のみ、ハツカダイコンに使用できる

\*2: つまみ菜や間引き菜への農薬使用については『ダイコンの「つまみ菜、間引き菜」への農薬使用について』の項を参照

## ダイコン、ハツカダイコン\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎黄病	播種前	1. 多発畑では高温期の栽培を回避する。 2. 耐病性品種を栽培する。 3. 発生畑は土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	本病菌は主にダイコンとカブを侵す。他のアブラナ科植物に発生する萎黄病菌とは宿主範囲が異なる。
	生育期および収穫後	・発病株は早めに処分する。また、残さはすき込まず、圃場外へ処分する。	
バーティシリウム黒点病	播種前	1. 耐病性品種を栽培する。 2. 発生畑は土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	萎黄病よりやや低温(20~25℃)で発病しやすい。 献夏37号、新人総太りなどは比較的耐病性が高く、耐病総太りは弱い。
	生育期および収穫後	・発病株は早めに処分する。また、残さはすき込まず、圃場外へ処分する。	
根くびれ病	播種前	・多発畑では7~8月収穫の作型を避ける。	本病は根部表皮の亀裂褐変(俗称・さめ肌)を起こすほか表皮黒変、内部黒変、横しまなどを生ずる。 病原菌はアフアノミセス菌で、土中に生存し水で伝染する。ダイコンのほか、アブラナ科野菜に寄生する。夏どりの作型で多発する。
	播種後~生育期	・圃場内の過湿、排水に留意する。	
	収穫期	・発病株の処分を徹底する。	
黒斑細菌病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科野菜に発生し、土壤伝染する。 晩秋から収穫期にかけて発生し、特に播種後気温の高い年に発生する。 病原細菌は植物体の傷口などから侵入するため、各種病害虫の多発および台風などは発生を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. 害虫類を防除する(害虫の項参照)。 2. 本葉3~4枚頃から次の薬剤のいずれかを散布し予防する。特に台風後には必ず散布を行う。 カスミンボルドー(水) 1000倍 カセット水和剤 1000倍 ヨネポン水和剤 500倍 Zボルドー(水)* 500倍	

\*1: ダイコン(根、及び茎葉 葉ダイコン、ダイコン菜を含む)と、ハツカダイコン(ラディッシュを含む)は、使用できる農薬が異なる ☆が付いている農薬のみ、ハツカダイコンに使用できる

\*2: つまみ菜や間引き菜への農薬使用については『ダイコンの「つまみ菜、間引き菜」への農薬使用について』の項を参照

## ダイコン、ハツカダイコン<sup>\*1</sup>(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
軟腐病	播種時	1. 播種期を過度に早めない。 2. 排水不良畑での栽培を避ける。	<p>晩夏から初冬にかけて温暖で多雨の年に夏どおりおよび秋どおり栽培に多発する。</p> <p>薬剤散布の際は展着剤を加用し、外葉や根首の部分に十分に散布する。病原細菌は害虫の食害、風害、農作業などによって生じた傷口から侵入する。 *野菜類での登録</p>
	生育期	1. ハイマダラノメイガ、コナガおよびナメクジなどの害虫を防除する(害虫の項参照)。 2. 本葉3~4枚のころから次のいずれかの薬剤を散布する。 スターナ水和剤 1000倍 ヨネポン水和剤 500倍 Zボルドー(水)* 500~1000倍	
モザイク病	播種前	1. 耐病性品種を栽培する。 2. ムシコンやダブルマルチフィルムを用いてマルチ栽培する。	<p>各種アブラナ科野菜、その他多くの作物に発生し、アブラムシによって媒介される。</p> <p>夏から秋にかけて高温乾燥の年、秋どりまたは冬どりに多発する。播種期を8月末以降にすると発生が少ない。マルチ栽培では高温障害に注意する。</p>
	播種時	・夏まき栽培では播種をできるだけ遅くする。	
	生育期	・アブラムシ類を防除する。	
アブラムシ類	播種時	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 次の薬剤をまき溝に施用し、土と混ぜる。 アドマイヤー1粒剤 3~6kg/10 a	<p>アブラムシは汁液を吸収して加害するだけでなく、ウイルス病を媒介するので、発芽直後から本葉7~8葉までは7日おきに薬剤を散布する。</p>
	生育期	・発生を見たら発芽直後から次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000倍 モスピラン顆粒水溶剤☆ 2000~4000倍	
タネバエ	播種時	・次の薬剤のいずれかを施用し土壌混和する。 ダイアジノン粒剤5☆ 全面又は作条土壌混和 4~6kg/10 a フォース粒剤 播溝土壌混和 4kg/10 a	

\*1: ダイコン(根、及び茎葉 葉ダイコン、ダイコン菜を含む)と、ハツカダイコン(ラディッシュを含む)は、使用できる農薬が異なる ☆が付いている農薬のみ、ハツカダイコンに使用できる

\*2: つまみ菜や間引き菜への農薬使用については『ダイコンの「つまみ菜、間引き菜」への農薬使用について』の項を参照

## ダイコン、ハツカダイコン\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カブラハバチ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ハチハチ乳剤 2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍	春と秋に発生が多い。
コナガ	播種前	1. 次の薬剤のいずれかを処理する。 オルトラン粒剤 3～4kg/10a (作条散布) モスピラン粒剤 3kg/10a (播溝土壌混和) 2. 広範な地域で設置可能であればコナガコン☆を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a または20cmチューブを200本/10a 設置する。	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 コナガコンは成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。オオタバコガに対する登録も持つ。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤☆#1 1000～2000倍 アタブロン乳剤 2000倍 アフーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF☆*1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤☆#1 2500～5000倍 ・ダイコン 5000倍 ・ハツカダイコン 2000倍 ノーモルト乳剤 1500倍 バダンSG水溶剤☆#2 2000～4000倍 フェニックス顆粒水和剤☆#2 3000倍 マッチ乳剤 1000倍 プレオフロアブル	*野菜類での登録 #1ダイコンとハツカダイコンでは本剤の使用時期及び使用回数異なるので注意する。 #2ダイコンとハツカダイコンでは本剤の使用回数異なるので注意する。
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤☆# 1000～2000倍 アタブロン乳剤 2000倍 エスマルクDF☆*1000～2000倍 バダンSG水溶剤 1500倍 プレオフロアブル 1000倍	老熟幼虫は薬剤がききにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録 #ダイコンとハツカダイコンでは本剤の使用時期及び使用回数異なるので注意する。

\*1: ダイコン(根、及び茎葉 葉ダイコン、ダイコン菜を含む)と、ハツカダイコン(ラディッシュを含む)は、使用できる農薬が異なる ☆が付いている農薬のみ、ハツカダイコンに使用できる

\*2: つまみ菜や間引き菜への農薬使用については『ダイコンの「つまみ菜、間引き菜」への農薬使用について』の項を参照

## ダイコン、ハツカダイコン<sup>\*1</sup>(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	生育期 6～11月	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 エコマスターBT☆* 1000倍 サブリナフロアブル☆* 1000倍 プレオフロアブル 1000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。 薬剤は葉裏にいていねいに散布する。 中齢期以降の幼虫には薬剤が効きにくい。  *野菜類での登録
ハスモンヨトウ	生育期	・広範な地域で設置可能であればフェロディンSL☆☆をトラップ1台につき1個取り付けて、2～4個/haとなるよう配置する。 1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤を散布する。 アタブロン乳剤 2000倍	*アブラナ科野菜での登録。フェロディンSLは雄成虫の誘因(大量誘殺)が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 通常多発するのは8月下旬以降である。時に大発生となる。 中齢期以降の幼虫には薬剤が効きにくい。
ネキリムシ類	生育期	1. 被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。 2. 次の薬剤のいずれかを株元に施用する。 播種時～生育初期 ガードベイトA(粒) 3kg/10a 播種時又は定植時 ネキリエースK(粒)☆ 3kg/10a	
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	幼苗期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤☆* 2000～3000倍 ハチハチ乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤☆# 2000～4000倍	夏が高温乾燥の時に多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。 幼虫が芯部に食入してからでは防除が難しい。早期に防除する。  *野菜類での登録  #ダイコンとハツカダイコンでは本剤の使用回数が異なるので注意する。

\*1: ダイコン(根、及び茎葉 葉ダイコン、ダイコン菜を含む)と、ハツカダイコン(ラディッシュを含む)は、使用できる農薬が異なる ☆が付いている農薬のみ、ハツカダイコンに使用できる

\*2: つまみ菜や間引き菜への農薬使用については『ダイコンの「つまみ菜、間引き菜」への農薬使用について』の項を参照

## ダイコン、ハツカダイコン\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
キスジノミハムシ	播種時	・ 次の薬剤を施用し、土と混ぜる。 フォース粒剤☆#1 播溝土壌混和：4～9kg/10 a 全面土壌混和：6～9kg/10 a	稚苗期には成虫の被害が大きく、幼虫は土中で根を食害し、ナメリ大根になる。
	生育期	・ 成虫の発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤 1000倍 サイアノックス乳剤#2 1000～2000倍 スタークル顆粒水溶剤 1000倍 ハチハチ乳剤 2000倍	#1播溝土壌混和はダイコンのみの適用 #2成虫のみに適用
センチュウ類(ネコブセンチュウ・ネグサレセンチュウ)	播種前	1. マリーゴールドなどを前作に入れて被害を回避する。 2. 前作物に寄生があったら土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 3. 次の薬剤のいずれかを播種前に全面散布して土壌混和する。 ネマキック粒剤 ネグサレ： 10～15kg/10 a ネマトリンエース粒剤 ネコブ： 15～20kg/10 a ネグサレ： 15～25kg/10 a バイデートL粒剤 ネコブ： 25～50kg/10 a ネグサレ： 20～50kg/10 a ラグビーMC粒剤 ネコブ： 20kg/10 a ネグサレ： 10～30kg/10 a	ネコブセンチュウが寄生するとマタ大根になる。  ネグサレセンチュウは美濃早生大根、高倉大根などに寄生し、肌にゴマ様の汚斑点や亀裂ができる。  キタネグサレセンチュウは薬剤に対する耐性が強く、防除が難しい。

ダイコン・ハツカダイコン

\*1: ダイコン(根、及び茎葉 葉ダイコン、ダイコン菜を含む)と、ハツカダイコン(ラディッシュを含む)は、使用できる農薬が異なる ☆が付いている農薬のみ、ハツカダイコンに使用できる

\*2: つまみ菜や間引き菜への農薬使用については『ダイコンの「つまみ菜、間引き菜」への農薬使用について』の項を参照